

日本産食品・和食レセプション（カタル）

在カタル大使館

日時

実施日時：2026年2月9日（月）
実施場所：リッツカールトンドーハ
訴求対象：現地政府関係者、食品含むビジネス関係者
開催規模：約350人

概要

- 現地政府及び食品を含むビジネス関係者を対象に、日本産食品の魅力発信と市場開拓を目的とした日本産食品レセプションを開催した。
- 料理の提供・説明を通じ、日本食の品質等への理解促進を図るとともに、現地関係者との意見交換を行った。

効果

- 参加者から好意的な反応や選好に関する情報が得られ、今後のプロモーション検討において参考となった。
- 現地市場における日本産食品の受容状況や関心分野について把握する機会となり、今後の取組の検討材料を得た。

特記事項

- 特になし



日本産食品・2027年国際園芸博プロモーション（クウェート）

在クウェート大使館

日時

実施日時：2026年2月3日（火）

実施場所：リージェンシーホテル

訴求対象：現地政府関係者、経済・文化関係者、外交団等

開催規模：約350人

概要

- 日本産食品及び2027年国際園芸博のプロモーションを実施。
- 大使スピーチにて、日本食材のクウェートでの更なる展開や対日投資、また園芸博PR映像の放映とともに来場を呼びかけた
- 公邸料理人が来場者の目の前で北海道産帆立貝柱と日本産和牛（A5ランク2種）を調理し、試食を提供した。
- 特設ブースを設け、対日直接投資促進プログラムを周知した。

効果

- レセプションに参加した現地政府要人、経済関係者等のグルメ志向の高い富裕層に対して、日本食材の魅力を効果的に発信できた。
- 現地紙にも大使スピーチの内容にも言及した記事が数多く掲載される等、高い発信効果を得られた。
- 試食した参加者からは、食材を購入できる店舗に関する質問が多く寄せられ、日本産和牛と海産物の認知度向上につながった。

特記事項

- 2025年9月、日本産和牛のクウェート向け輸出が可能となり、2026年初よりクウェート国内で和牛の流通が開始した。



日本産食品のPR（バーレーン）

在バーレーン大使館

日時

- 実施日時：2026年2月8日（日）
- 実施場所：ガルフホテル（アル・ダナボールルーム）
- 訴求対象：現地政府関係者、外交団、経済関係者、日系企業関係者等
- 開催規模：約500人



概要

- 天皇誕生日祝賀レセプションの場を活用し、公邸料理人、当地レストランによる日本食ブースを複数を開設し、日本産食品（水産品）のPRを実施。
- 各店で寿司やカキフライ、エビ天ぷら等の料理を提供し、日本産食材の魅力やおいしさをPRし、当地レストラン等での導入機会、日本からの食品輸出機会及び対日投資機会向上に寄与。
- 会場内の大型スクリーンを用い、日本食に関する動画も放映し、効果的なPRとなるよう工夫した。



効果

- 当日は来場客のほとんどが日本食ブースに非常に高い関心を示し、開始30分で全てのブースで用意していた料理が無くなるなど、大変な盛況ぶりであった。
- 特に公邸料理人と、当地で人気のある日本食店(Mirailレストラン)のシェフが握る正統な寿司のスタイルに対する評判が非常に高く、バーレーンにおける正統な日本食の人気の高さと今後の日本食の展開に向けた期待が示された。（公邸料理人、Mirailレストラン、Satoレストランに対し、水産品予算で購入した日本産水産品の調理を依頼。）
- イベントに参加した日本食材の卸売り業者の社長からは、「レストランやホテル関係者から日本食材の仕入れに関して多数希望を聴取でき、非常に高い関心があることが伺えた。今後のバーレーンにおける仕入れや提携の可能性を真剣に模索していきたい。」などの声も聞くことができ、日本とバーレーンの食の関係者間を繋ぐ非常に良い機会となった。



特記事項

- 今回のPRのため、総量255kgの水産品をドバイの卸売業社から購入、空輸した。
- 当地には日本産食材を専門的に扱う日系スーパーマーケットや流通業者がないため、本イベントを契機とし、近隣諸国で事業を展開する日系スーパーマーケットや関連業者との関係強化、当地への進出に関して働きかけを強化していきたい。

